

いもう 葦毛通信



ミコシギク

2025年9月25日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 175

1、第9回葦毛湿原再生フォーラム

「ミコシギクの保全とボランティア活動」

と き：10月18日(土)開会13時55分～16 時40分（開場13時30分）

ところ：豊橋市民センター カリオンビル6階多目的ホール（松葉町2丁目63）

講師：塩路恒生（広島大学技術センター）・贅 元洋（豊橋市文化財センター）

演題：塩路恒生「福富町のミコシギクの保全とボランティア活動」

贅 元洋「三太郎池湿地のミコシギクの保全とボランティア活動」

定員：99名 当日先着順 参加料：無料

問合せ：豊橋市文化財センター（☎0532・56・6060）

内容：豊橋市指定天然記念物「三太郎池湿地」には、愛知県絶滅危惧ⅠA類のミコシギクが自生しています。ミコシギクは中国大陸から朝鮮半島を経由して日本に分布した大陸系植物で、現在は愛知県、岡山県、広島県など限られた地域に分布しています。

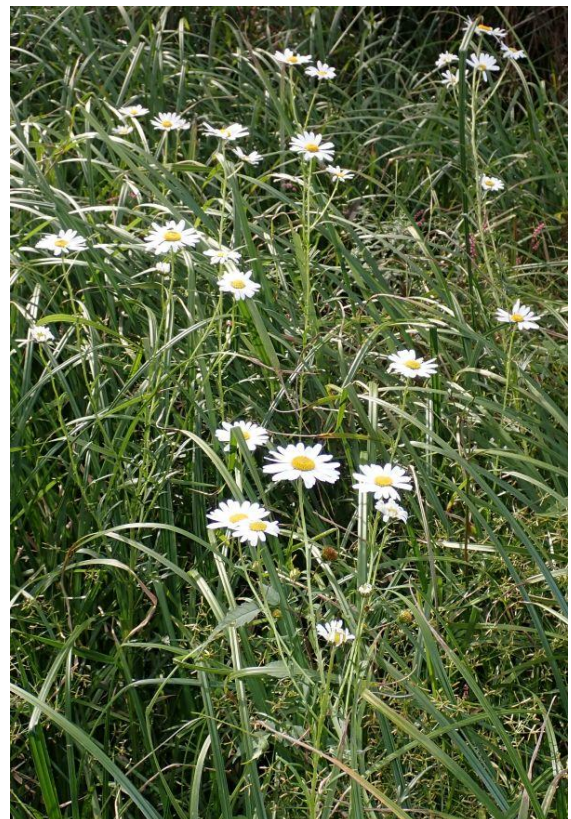
このミコシギクの保全をどのように進めて次世代に引き継いでいくか、保全方法の検討とボランティア活動で先進的な取り組みをしている東広島市の事例を紹介し、ミコシギク保全の将来進むべき方向を示します。

1) ミコシギク

ミコシギクはキク科ミコシギク属に属する多年草で別名をホソバノセイタカギクと言います。高さは30～100 cm程度とされていますが、まれに150 cmほどになるものも見られます。茎は細く、他の植物に寄り掛かったようになっています。花は直径3～5 cm程度で枝の先端に1花ずつ開花します（右写真）。花は大きく栽培種であるマーガレットのようです。瀬戸内海から東海地方の西日本を中心に分布しています。

花期は9～11月とされていますが、三太郎池湿地では例年10月終わりから11月上旬に開花します。花は最初茎の先端に1つだけ開花する頭頂花ですが、2～3年して成長すると茎の先端が枝分かれしていき、それぞれの枝先に花をつけるようになり、1個体で多くの花を咲かせるようになります。

三太郎池湿地は日本におけるミコシギクの分布の東南端にあたり、他の地域よりも開花期が遅くなっているようです。



ミコシギク（2021年10月24日）

3) 三太郎池湿地のミコシギク

ミコシギクは豊橋市指定天然記念物「三太郎池湿地」に自生しています。かつてミコシギクは葦毛湿原にあると記載されていましたが、現在の国指定天然記念物「葦毛湿原」とその周辺にある湿地群全体を「葦毛湿原」と称していたので、そのような記載になっています。葦毛湿原周辺には、第2湿地、第3湿地、三太郎池湿地を含む多数の湧水湿地があり、全体で湧水湿地群を構成しています。ミコシギクは、それらの中でも三太郎池湿地だけに自生していた植物です。



かつては三太郎池の池畔に多くのミコシギクが見られました。星野清治さん撮影の写真をみると、今から57年前の1968年には池畔の広い範囲に自生し、開花数も優に1,000輪を超える状態でした。



現在は、豊橋市指定天然記念物三太郎池湿地の中で大切に保護されています。

かつての三太郎池湿地のミコシギク（1968年撮影：星野清治）

2) ミコシギクの保全活動

三太郎池湿地のミコシギクは2018年に開花数が1輪になってしまい、絶滅の危機に瀕する状態になりました。そこで、葦毛湿原で行っている大規模植生回復作業に準じたやり方でミコシギクの再生を行いました。作業は2018・2019年度の2か年で、豊橋湿原保護の会や豊橋自然歩道推進協議会等のボランティアの方々の協力のもと、最後に残った自生地点と三太郎池の池畔の2か所で行いました。

【最後の自生地点】

作業はまず、最後に残った自生地点で行いました。三太郎池の池畔から上流部に少し入ったところで周りから木が侵入してかなり暗くなり、現状はイノシシ除けの柵で囲われていました。

まず、この部分の木を伐って明るくすることから始めました（右上写真）。

作業後はまだ周りには木がありますが、かなり明るくなった状態です（右下写真）。木の伐採後、杭を打ってイノシシ除けのために太いテグス（釣り糸）を三重に張りました。

その後、ミコシギクは 2919・20 年が各 5 輪、2021 年が 43 輪、2022 年が 84 輪、2023 年が 102 輪へと開花数が増えました。しかし、2022 年の 84 輪は開花後すべてニホンジカに食べられてしまいました。

そこで、現在は自生地全体を高さ約 2 m のネットで囲み保護しています。これまでのところ、シカの食害は起きておらず、今年も多くの花を咲かせてくれると思われます。

【三太郎池の池畔】

三太郎池の池畔は、かつて最も多くのミコシギクが咲いていた地点で、1968 年に星野さんが撮影した地点です。作業前には池畔の水際まで木が侵入し暗い森になっていました（次頁中写真）。作業後は水際を中心に明るくなり、ミコシギクが生育できる環境になりました（次頁下写真）。しかし、この時点では埋土種子からミコシギクが再生することはありませんでした。キク科の植物は埋土種子を形成せず、種子散布後、最初の春に開花しなかった



作業中（2019 年 2 月）
（杭で囲われた中にミコシギクがある）



作業 8 か月後の状況（2019 年 10 月）
（ミコシギク自生地点を杭で囲いテグスを張った）



三太郎池池畔作業中（2020年1月14日）（左：池畔奥上流側、右：池畔の状態）

ものは、そのまま死んでしまうとされていきました。

植生回復作業前は水際まで木が侵出しているのがわかります。左側奥には竹林が見え、右側は照葉樹林になっていますが、星野さんが写真を撮った50年以上前は、池畔は広く湿地と草地になって、木はありませんでした。



三太郎池の池畔・作業前（2019年2月20日）

3) ボランティア活動

第9回葦毛湿原再生フォーラムではミコシギクの保全とともに、ボランティア活動を大きなテーマとしています。

三太郎池湿地は岩崎広場という里

山として管理しているところに隣接しています。岩崎広場は岩崎里山の会が管理しており、多くボランティアの方々が炭焼きや果樹栽培等の様々な活動をしています。三太郎池湿地は岩崎里山の会と豊橋湿原保護の会の会員等の多くの方々がボランティアとして参加しておられ、湿地を未来の世代に伝えていくための大きな力になっています。

フォーラムでは、広島大学植物園・学生・研究者、守る会、地元中学校等の多くのボランティアに支えられて活動が続けている東広島市の事例を紹介していただき、豊橋市での今後の活動の指針にしたいと考えています。ぜひ、多くの方の参加をお願いいたします。



三太郎池の池畔・作業後（2020年5月6日）